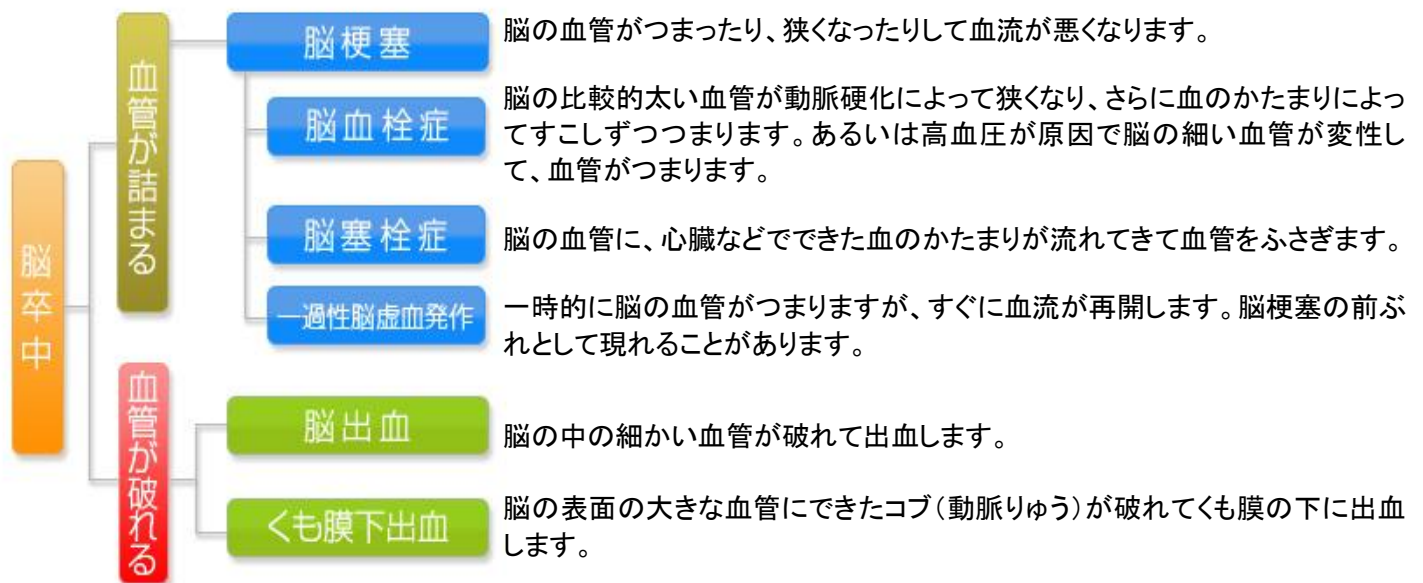


●脳卒中とは？

脳卒中の患者数は現在約150万人といわれ、毎年25万人以上が新たに発症していると推測され、がん・心臓病に次いで日本における死因の第3位となっています。また、寝たきりになる原因の3割近くが脳卒中などの脳血管疾患です。高齢者の激増や、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病の増加により、脳卒中の患者は2020年には300万人を越すことが予想されています。

「脳卒中」にはいくつかの種類がありますが、大きくは脳の血管がつまる「脳梗塞(のうこうそく)」と、脳の血管が破れて出血する「脳出血」や「くも膜下出血」に分けられます。

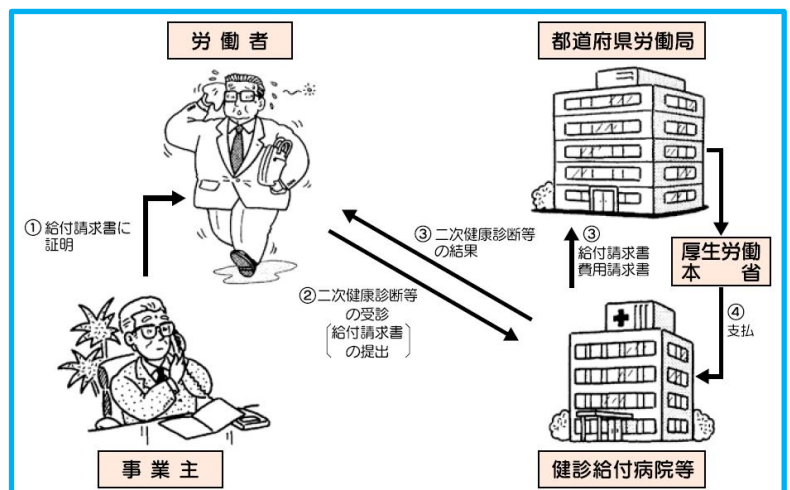


●二次健診等給付制度をご存じですか？～厚生労働省より～

二次健康診断等給付は、労働安全衛生法に基づく定期健康診断等の一次健康診断において、「過労死」等(業務上の事由による脳血管疾患及び心臓疾患の発生)に関連する血圧の測定等の項目について異常の所見が認められる場合に、労働者の請求に基づき、労災病院または労働局が指定する病院・診療所において、二次健康診断および特定保健指導を無料で受診できます。

二次健康診断で脳血管や心臓の状態を把握でき、またその結果に基づいた病気の発症予防のための保健指導を受けることができます。

当施設も給付病院等に指定されています。詳しくはスタッフにお問い合わせください。



二次健康診断等給付の流れ

●脳卒中予備軍から脱却しよう

脳卒中はほとんどの場合、何らかの病気を持っている人に起こります。脳卒中を引き起こす病気や生活習慣を改善しましょう。

① 高血圧

脳卒中の最大の危険因子です。血圧値が高くなればなるほど、脳卒中(特に脳出血)の発症率が高くなります。血圧のコントロールが大切です。

② 糖尿病

糖尿病の人は健康な人よりも脳梗塞の発症率が高いこともわかっています。糖尿病は動脈硬化の原因の一つであり、また血液がドロツとして流れにくくなるからです。

③ 脂質異常症(高脂血症)

コレステロール、特に悪玉といわれるLDLコレステロールの高い人、善玉といわれるHDLコレステロールの低い人は、全身の動脈硬化を起こしやすく、脳梗塞(特に脳血栓症)のリスクにもなります。

④ 心疾患(不整脈など)

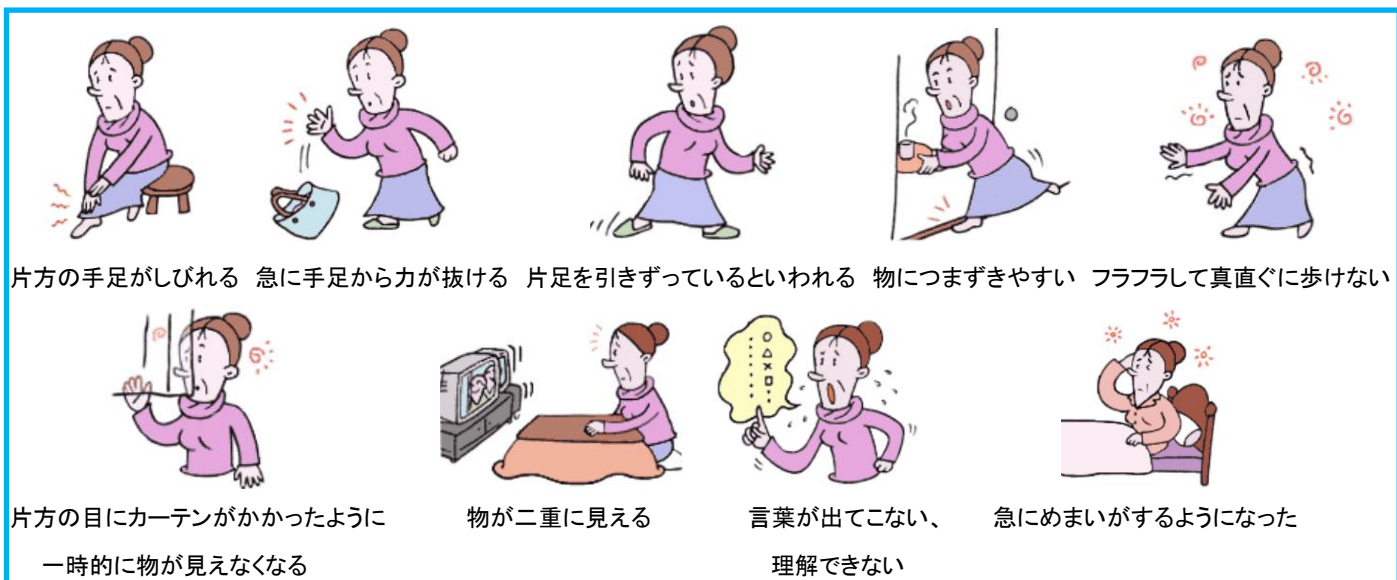
心疾患、特に不整脈の一種である心房細動を持っている人は、心臓内で血が固まりやすく、これが脳塞栓症の原因となります。65歳以上の高齢者の5~10%が心房細動を持っています。心房細動は、たいした自覚症状がないので、放置されていることも少なくありません。

⑤ 生活習慣、その他

病気ではありませんが、肥満、運動不足、喫煙、多量飲酒(1日1合以上)、過労・ストレスの蓄積といった生活習慣の問題は、高血圧、糖尿病、脂質異常症などを引き起こし、また脱水や不整脈なども誘発します。

●脳卒中の前触れ発作を見逃さない！ 放置しない！！

くも膜下出血を除く脳卒中の症状の多くは、半身の脱力や感覚異常など、身体の半分の障害として出現するという原則があります。二つある大脳半球はそれぞれ反対側の身体をコントロールしていることが理由です。実際の脳機能は非常に複雑なので、障害部位によって出現する症状も多彩です。急いで専門医を受診し、対策を立ててもらふ必要があります。



バックナンバーはホームページよりダウンロードできます。

定期購読を希望される方や内容についてのご質問がございましたらお気軽にお問い合わせください。